

夏の団報

OB会の皆様へ

2020年8月 大阪大学混声合唱団

○前期の活動内容

zoomなどを用いたリモート練習や新入生勧誘活動を行いました。

○部長挨拶（部長：相川大知）

降るような蝉時雨、OB・OGの皆様におかれましてはご壮健のこととお慶び申し上げます。

今年度部長を務めております、平成29年度入団の相川大知と申します。

さて、この度は「夏の団報」として前期の活動報告と今後について、現時点でのご報告をさせていただきます。大学の暦の上で、また阪大混声のスケジュールといたしましても前期が終了いたしました。春の団報では「異例の幕開け」として新学期、コロナウイルスによる影響のもと活動を自粛せざるをえない状況について言及させていただきましたが、その後も3月に練習を自粛し始めてから一度も対面での練習を行うことができずに前期の終わりを迎えました。心のどこかで前期のうちには一度ぐらいは対面での練習はできるのではないかと情勢が落ち着きかけた6月ごろには期待しておりましたが、その後もコロナウイルスは猛威をふるい続け、大学からの活動自粛要請の継続、そして何より団員の安全のため、現在は対面での活動自粛を続けざるを得ない状況にあると理解しております。

この半期、団員たちは答えのない状況下での活動を模索してきました。制約の多い中でのオンライン練習やオンラインでの新歓などを企画・参加し、コロナ禍でもなんとか阪大混声の活動を継続しようというものの、各演奏会や行事の中止に関する諸々の手続きや今後の活動を模索する会議、大学に提出する申請書の作成といった事務的な手続きなど様々で、私の把握していないものも数多くあると思っております。もちろん環境が整わず練習に参加できないなどの苦悩もありました。また、リモート合唱など新しい合唱の形に挑戦する団員の姿もありました。様々な活動の成果として、毎週土曜日に開かれていたオンライン新歓を通じて毎回見学者を迎え入れ、その中で数名の新入生が仮入団という形ではありますが、現在阪大混声の活動に継続的に参加してくれております。試行錯誤の活動の中、このような状況下でも一緒に歌いたいと見学に来てくれる、さらには、仮入団を決めてくれた新入生がいることは、私たち団員にとって非常に勇気づけられることであり、一緒に歌えるように頑張っていきたいと思える出来事でした。

今後どのように活動を行っていくのか、課題はまだまだ山積しておりますが、これまでの慣習に囚われず、新しいことに取り組むチャンスであるとも考えております。前例のないことに取り組むには大きなエネルギーが必要であるとは思いますが、今年度の阪大混声だからこそできることに取り組んでいく所存です。

末筆になりますが、藤岡正憲会長以下、OB会役員の方々をはじめ、皆様の日頃よりのご支援、ご配慮に厚く御礼申し上げます。今年度前期は皆様に活動の一端をお見せすることが叶わなかったため、例外的に「夏の団報」として活動報告をさせていただきました。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。